

令和4年度 長尾谷高等学校 学校評価について

< 目 次 >

- I 令和4年度 長尾谷高等学校 学校評価
- II 令和4年度 長尾谷高等学校評価アンケート 評価結果報告書
- III 学校関係者評価 概要
- IV 「令和5年度 長尾谷高等学校学校関係者評価委員会」の意見

I 令和4年度 長尾谷高等学校 学校評価

1 めざす学校像

- (1) 一人ひとりを大切にし、自立した学びを続けられる人材を育成する
- (2) 一人ひとりの特性に配慮し、『学びの個別化』に対応した教育
- (3) AI時代に対応

2 中期的目標 (Plan)

1 学校運営

- (1) 教育課程
- (2) 年間を通じた教育計画の作成
- (3) 教職員間の情報共有と連携強化
- (4) 開かれた学校づくり・情報公開
- (5) 危機管理

2 教育内容・教育の課題

- (1) 情報教育
- (2) 教育体制及び重点目標
- (3) 特別活動・部活動の充実

3 生徒指導・支援

- (1) 生徒支援 (学習指導・進路指導)
- (2) 生徒指導・校内巡回の充実

4 教職員研修・資質向上

- (1) 教職員研修
- (2) OJTの効果的活用

【自己評価アンケート結果と分析・学校評価委員会からの意見】(Do、Check)

自己評価アンケートの結果と分析[令和4年12月～令和5年1月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p><教職員></p> <ul style="list-style-type: none">・実施日 令和4年12月15日(木) ～ 令和5年1月14日(土)・対象者 常勤教職員 59名(回答率100%) <p>【分析】</p> <p>自己評価アンケートの回答率は100%であり、全教職員の意思が結果に反映されていると考えられる。全質問項目における肯定的回答(AとB)は96.8%であり、昨年度の回答より1.8ポイント上昇した。教職員は、本校の教育内容全般にわたって高い自己評価をしていることがわかる。</p> <p>特に、教科指導、特別活動、学校説明会、教職員の協力体制等の項目が高い自己評価となっており、これらは他校に比しての本校の強みと考えられる。</p> <p>一方で、情報教育、国際教育、部活動の活性化、人権教育等の項目はBの回答も多いことから、これらの点については、今後とも学校全体で組織的な改善に向けた取り組みが必要があると思われる。</p>	<p><学校関係者評価委員会></p> <ul style="list-style-type: none">・実施日 令和5年8月25日(金)・評価委員 4名 <p>【総括評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・新入学生徒や転入学生徒が増加するなか、さまざまな取組みをされていることがわかりました。引き続き、生徒達のために何ができるのかを考えていただき、教育を進めていただければと思います。・通信制高校全体の志願者が増加している。事務量の増加に対して、全教職員の一致協力に対応することはもちろんのこと、「働き方改革」の観点から、教職員の負担が増加することなく対応できる組織体制の構築が必要と思われる。・通信制の中で生徒との関係性を高めようとされている取り組みが伺える。また、教職員の充実感、教育活動への積極的に取り組む意欲と自信が伺える。今後、更なる活躍に期待したい。・肯定的評価が高く、丁寧な指導が行われていることが伺えます。 <p>※ 各項目の詳細については、別添資料「IV『令和5年度 長尾谷高等学校学校関係者評価委員会』の意見」を参照。</p>

3 令和4年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学校運営	(1) 教育課程 教育課程内容の検証	ア学習指導要領の対応状況	学習指導要領と教育課程・授業内容との一致	教育課程は学習指導要領の趣旨内容に的確に対応している
	(2) 教育計画 教育計画の充実	教育計画の作成と内容の精選	各教科とも教育計画内容の精選を実施	年間を見通した教育計画を立案し、授業の充実に努めている
	(3) 情報共有と連携 ア 教員間の連携	教員間教科間の相互理解に基づく教育活動	相互理解と信頼関係の構築	緊密な連絡で相互理解に努め、共通意識をもって取り組んでいる
	イ 教員と事務職員間の連携	両者の間での情報共有の機会を増加させる。	相互理解と信頼関係の構築	教員と事務職員間の情報交換の機会を増加し相互理解連携を図っている
	(4) 情報公開 ア 学校ホームページの充実	学校ホームページの情報内容の精選と充実	公開情報を日常的にチェックし更新する	掲載する情報量や更新スピードについては、なお改善の余地がある
	イ 学校説明会の充実	説明内容の充実と開催の回数を最低10%増加する。	説明内容を精選し必要な情報を常に検証する	学校見学・説明会の充実のために、学校全体で取り組んでいる
	(5) 危機管理 危機管理マニュアル	役割の明確化と諸機関との連携	訓練内容の精選と充実	周知徹底や各種訓練の充実については、なお改善の余地がある
	(1) 情報教育 情報能力育成、情報モラル指導	I T活用能力育成と情報発信モラルの教育に取り組む	授業を含め様々な機会をとらえて指導する	情報リテラシーや情報発信モラルの育成については、全教職員で取り組む必要がある
	(2) 教育体制及び重点目標 ア 人間性を培う教育の充実	知性と感性の調和のとれた人間性を育む教育の実践	面接指導の充実が図られている	対面指導（面接指導）を通じて、生徒と向き合う粘り強い指導が展開されている
	イ 国際教育の充実	国際的視野に立った判断力・言動力の醸成	他者の人権尊重と価値観の多様性への理解	コロナ禍や国際情勢の流動化の中でも、セブ島への語学研修を初実施し、国際教育の充実に努めている
(3) 特別活動・部活動 特別活動・部活動の充実	特別活動の実親内容と部活動指導の充実・活性化	特別活動の参加者数を10%増加し、部活動実績を2～3部向上させる	特別活度は多種多彩に開催実施しており、部活動においても複数の部において優れた実績が残せた	

3 生徒指導・支援	(1) 生徒支援 (学習指導・進路指導)			
	ア 学習指導・進路指導の充実	生徒の実態に即した学習指導と進路指導の促進	生徒の実態を表面に現れた事象だけでなくその背景まで考慮しているか	個別相談等で一人ひとりの実態を見極めつつ、生徒の要望に即した指導の実践に努めている
4 教職員研修・資質向上	(2) 生徒指導・校内巡回の実施			
	生徒指導体制の確立	指導方針の共通理解と丁寧な生徒観察の実施	共通認識に基づいた組織的対応と生徒への積極的な声掛けの実践で問題行動数を10%減少させる。	教職員間の共通認識のもと、カウンセリングマインドを持って、生徒とのより良いコミュニケーションが図られている。問題行動数は減少傾向にある。
4 教職員研修・資質向上	(1) 自己研修・資質向上			
	研修体制の充実	自らの資質向上に努める	自らの資質向上に務めているか	教員の資質向上については研修参加等、各自向上心をもって進めている。人権教育の進化充実については、なお改善の余地がある
4 教職員研修・資質向上	(2) OJT			
	OJTの効果的な活用	教職員間での業務遂行の際の良好な連携・協力体制の構築	業務遂行について今教職員相互に関心を持ち、経験者による適宜・適切な助言ができていますか	管理職、及び経験豊富な者からの適宜・適切な指導・助言の実践が行われており、教職員全体の資質向上につながっている

4 【自己評価アンケートを踏まえた 令和5年度の改善点】 (Action)

(1) IT活用能力や情報発信モラルの育成

新型コロナウイルス感染症の拡大により、IT機器を用いた教育は一層重要性を増している。また、生徒や保護者のスマートフォン等への依存は、一層その程度を増している。このような中にあっては、教職員一人ひとりが、IT機器に関するスキルの更なる向上に努めるとともに、通信制の特色や本校生徒の実態に即した授業内容の工夫・改善やモラル指導の充実を着実に進めていくことが何よりも重要である。また、総合企画検討会議やGIGAスクール検討委員会において、情報教育の充実について全校的な視野から研究・検討を進めていくこととする。

(2) 国際的視野に立った思考力・判断力の育成

世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大や国際情勢の緊迫化・流動化を受けて、国際的視野に立った思考力・判断力の育成が一層重要性を増している。Eクラスの海外語学研修(フィリピン・セブ島)や海外語学スクーリング(カナダ・バンクーバー等)の充実にも努めるとともに、生徒・教職員研修のいずれもが様々な機会をとらえて国際的知見を深めなければならない。

Ⅱ 令和4年度 長尾谷高等学校学校評価アンケート 評価結果報告書

2022（令和4）年度の学校法人東洋学園長尾谷高等学校の教育活動について、内部構成員である関係教職員が行った自己評価の集計結果と分析結果を報告する。

アンケート内容

学校法人東洋学園の中期・長期経営目標や長尾谷高等学校の教育目標等をふまえ、質問項目は20問とした。なお、質問数や内容は、昨年度までと同じである。

アンケート対象者

常勤教員全員の57名、事務職員のうち専任かつ事務主任以上の2名の合計59名を対象とした。

アンケート回答方法

各質問について、「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：まったくあてはまらない」の4つの選択肢の中から、あてはまるものを回答する方法とした。

アンケート集計結果と分析結果

1 学校運営について

学習指導要領への対応について

① 「学習指導要領・教育課程と授業内容は一致していますか」

回答は A：43 B：16 C：0 D：0 である。

2022（令和4）年度より、高等学校の新学習指導要領が年次進行で適用となったが、本校では、これに的確に対応した教育課程を編成して授業が行われている。

教育計画について

② 「年間を通じた教育計画を精選し、充実させていますか」

回答は A：41 B：18 C：0 D：0 である。

各教員が年間を見通した教育計画を立案し、授業の充実に努めていることがわかる。

教員間連携について

③ 「教員間、教科間の相互理解に基づく教育活動が行えていますか」

回答は A：44 B：14 C：1 D：0 である。

各分校・分室内でも、本校全体でも、教員同士が緊密なコミュニケーションや連絡を取り合いつつ、相互理解に努め、共通意識をもって教育活動を展開していることがわかる。

教員と事務職員との連携について

④ 「各分校分室内で教員と事務職員との相互理解が構築されていますか」

回答は A：46 B：13 C：0 D：0 である。

各分校・分室内でも、本校全体でも、質問④の教員間と同様に、教員と事務職員間同士が緊密なコミュニケーションや連絡を取り合いつつ、相互理解に努め、共通意識をもって教育活動を展開していることがわかる。

学校 HP の充実について

- ⑤ 「学校 HP など公開する情報は日常的に点検、更新されていますか」

回答は A : 34 B : 22 C : 3 D : 0 である。

学校 HP は、各分校・分室の情報や意見を学園本部が集約して逐次更新されているが、掲載する情報量や更新のスピードについては、もう少し改善の余地があると多くの教職員が感じていることがこの回答データから推察される。

学校説明会の充実について

- ⑥ 「説明内容は精選し、必要な情報を常に検証していますか」

回答は A : 47 B : 11 C : 1 D : 0 である。

中学生や高校生およびその保護者に対して、各回の学校説明会において適切な情報が提供されていることがわかる。

危機管理マニュアルについて

- ⑦ 「役割の明確化、諸機関との連携、訓練内容の精選と充実はなされていますか」

回答は A : 26 B : 30 C : 3 D : 0 である。

不測の事態に対応するための「危機管理マニュアル」に関して、各教職員への周知徹底や各種訓練の充実については、もう少し改善の余地があると多くの教職員が感じていることがこの回答データから推察される。

2 教育内容について

情報教育の充実について

- ⑧ 「IT 活用能力の育成と情報発信モラルの教育に取り組み、これらを授業を含め様々な機会をとらえて指導していますか」

回答は A : 13 B : 38 C : 8 D : 0 である。

IT 活用能力や情報発信モラルの育成については、教科「情報」の授業だけでなく、すべての教科やあらゆる教育活動を通じて全教職員が一致して推進していかなければならないが、多くの教職員が一層の充実が必要であると感じていることがこの回答データから推察される。

2022（令和 4）年度から各校に電子黒板が導入されたが、今後はこれについてのより効果的な活用法を研究・検証することが求められる。また、PC やプロジェクターなどを含めた情報機器の一層の充実配備も必要である。

人間性を培う教育の充実について

- ⑨ 「生徒指導において人間性を培う教育の充実が図られていますか」

回答は A : 32 B : 27 C : 0 D : 0 である。

様々な課題を持つ生徒に対して、生徒自身が自分や周囲の人々を大切にする意識を高めることができるよう、粘り強い指導が展開されていることがわかる。

- ⑩ 「生徒が興味関心を持てるような面接指導（授業）の充実が図られていますか」

回答は A : 34 B : 20 C : 5 D : 0 である。

学習習慣や学力に課題を持つ生徒が多く在籍する中で、各教員は熱心に授業改善に取り組んでいるが、生徒に発問しながらの双方型授業やアクティブラーニングの実施が難しい現状に苦勞する教員がいることもこの回答データから推察される。

国際教育の充実について

- ⑪ 「国際的視野に立った思考力・判断力の醸成の機会を設けていますか」

回答は A : 21 B : 31 C : 7 D : 0 である。

本年度はEクラスのフィリピン・セブ島への語学研修が初めて実施され、カナダ・バンクーバーでの語学研修と合わせて、充実したプログラムが展開されている。これらの成果と課題については、11月15日(火)になんば校で開催された「令和4年度近畿地区高等学校通信制教育研究会英語科研究会」で研究発表を行った。

しかしながら、長引くコロナ禍や国際情勢の緊迫化・流動化の影響もあり、学校全体としては、国際教育の充実に難しさを感じている教員がいることもこの回答データから推察される。

特別活動・部活動の充実と活性化について

- ⑫ 「特別活動の実施内容は充実していますか」

回答は A : 52 B : 7 C : 0 D : 0 である。

本校では、多彩な特別活動プログラムが提供されている。教職員が一致協力して、一層の進化充実に向けて取り組んでいることがわかる。

- ⑬ 「部活動の活性化を図るため、指導体制は整備されていますか」

回答は A : 20 B : 36 C : 3 D : 0 である。

通信制独特の学習・登校形態や5校分散など部活動展開に関する課題はあるもの、運動部・文化部ともに熱心な活動が続いている。今年度からは、なんば校に「eスポーツ同好会」が発足し、約15名の生徒が入部した。また、文化部の成果発表の場である「長尾谷祭(文化祭)」が、新型コロナウイルスへの感染拡大防止に配慮しつつ、11月20日(日)に枚方本校で開催された

しかしながら、部活動に参加する生徒は一部にとどまっており、一層の充実に向けた工夫が必要であると感じている教員がいることもこの回答データから推察される。

3 生徒指導・支援について

学習指導、進路指導の充実について

- ⑭ 「生徒の実態に即した学習指導・進路指導が行われていますか」

回答は A : 38 B : 21 C : 0 D : 0 である。

進路指導については、大学・短期大学や専門学校への進学や企業就職の両面で、生徒の実態や要望に即した丁寧な指導が行われていることがうかがえる。

指導方針の共通理解と丁寧な生徒観察について

- ⑮ 「生徒指導方針の共通理解とそれに即した丁寧な指導が行われていますか」

回答は A : 38 B : 20 C : 1 D : 0 である。

様々な経緯を経て入学した生徒に対して、教職員がカウンセリングマインドを持ち、生徒一人ひとりに寄り添いながら丁寧な指導が行われていることがうかがえる。

支援を要する生徒について

⑩ 「特別な支援を必要とする生徒について、各校で把握し全体で取り組んでいますか」

回答は A : 46 B : 13 C : 0 D : 0 である。

各分校・分室の特別支援コーディネーターを中心に、各校で支援を要する生徒の情報を集約し、共通理解が図られている。今年度からは、スタートクラスでスクールカウンセリングが実施されているが、これについては、今後の充実に向けて一層の工夫改善が必要である。

4 教職員研修・資質向上について

研修体制の充実について

⑪ 「教職員研修の実施及び研修の成果は共有されていますか」

回答は A : 28 B : 28 C : 3 D : 0 である。

教職員研修については、校内研修として新任教員研修、中堅教員研修、S 等級アドバンス研修、事務職員研修等が実施され、外部研修として私学人研主催の新任教員研修等も実施されている。また、各教科の授業研究会や実技研修会が定期的に開催されている。これらの研修の効果をさらに高めるためには、研修会の内容や展開方法、実施時期、成果の共有方法等について、今後一層の検討改善が必要である。

人権教育の充実について

⑫ 「学校生活のあらゆる機会をとらえて人権教育についての指導が行えていますか」

回答は A : 22 B : 35 C : 2 D : 0 である。

人権教育主担を中心に、あらゆる場面を通じて教職員全体で取り組んでいるが、今後一層の深化充実に向けた工夫が必要であると感じている教員がいることもこの回答データから推察される。

業務遂行の際の連携協力について

⑬ 「業務遂行について管理職、経験豊富な先輩からの適宜・適切な助言などはもらえていますか」

回答は A : 45 B : 14 C : 0 D : 0 である。

各分校・分室の管理職や中核となる教職員が中心となり、風通しの良い職場環境や報告・連絡・相談体制を構築し、良好なチームワークの下で学校運営が展開されていることがわかる。

⑭ 「指導力向上のため、自己研鑽に努めていますか」

回答は A : 30 B : 28 C : 1 D : 0 である。

各教員は自身の指導力向上に向けて自己研鑽が必須であることは十分に理解していると思われるが、一層の充実に向けて更なる努力が求められる。

令和4年度 長尾谷高等学校学校評価アンケート 総括

2022（令和4）年度の学校法人東洋学園長尾谷高等学校の教育活動について、内部構成員である関係教職員が行った自己評価の集計および分析結果について報告する。

アンケートの概要

アンケート内容は、学校法人東洋学園の中期・長期経営目標や長尾谷高等学校の教育目標等をふまえ、質問数や内容については昨年度までと同じ20問とした。なお、質問項目は別紙の通りである。

アンケートは、常勤教員全員の57名、事務職員のうち専任かつ事務主任以上の2名の合計59名を対象として令和4年12月から令和5年1月にかけて実施し、全員から回答を得た。

アンケート回答方法は、昨年までと同じく、各質問について「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：まったくあてはまらない」の4つの選択肢の中から、あてはまるものを回答する方法とした。

集計および分析結果

全回答結果を肯定的評価（AとB）と否定的評価（CとD）に分けて分析した場合、肯定的評価は96.8%であり、昨年度の回答より1.8ポイント上昇した。教職員は、本校の教育内容全般にわたって概ね高い自己評価をしているといえる。

以下は、肯定的評価の割合に応じて、個別の質問項目について分析を進める。

【肯定的評価が100%】

全20問中、①「学習指導要領への対応」、②「年間を通じた教育計画」、④「教員と事務職員との連携」、⑨「人間性を培う教育の充実」、⑫「特別活動の充実」、⑭「学習指導、進路指導の充実」、⑯「支援を要する生徒への対応」、⑲「業務遂行の際の連携協力」の8項目が該当する。令和4年度から年次進行で適用になる学習指導要領をふまえ、年間を見通した学習指導が全校・全教科・全科目で展開されていることがわかる。また、全教職員の緊密な報告・連絡・相談体制の下で、生徒一人ひとりに寄り添った指導が展開されていることも本校の大きな特色であることがわかる。

【肯定的評価が95%以上かつ100%未満】

全20問中、③「教員間の連携」、⑥「学校説明会の充実」、⑮「指導方針の共通理解と丁寧な生徒観察」、⑱「人権教育の充実」、⑳「自己研鑽」の5項目が該当する。さまざまな課題を抱える生徒が多く在籍する中で、全教職員が指導方針を共通理解し、基本的人権を尊重しながら丁寧にカウンセリングマインドをもって生徒に対応していることがわかる。また、教職員としての資質を高めるために、しっかり自己研鑽に努めている姿勢も見取れる。さらに、生徒獲得や志願者数増加にむけた生命線である学校説明会の充実についても、ほとんどの教職員が高い自己評価を行っている。総合企画室や学園本部広報部を中心にわかりやすいパンフレット・学校案内・募集要項を作成するとともに、各項での学校説明会の充実、外部会場での相談会、中学校・高等学校訪問等の広報活動に全教職員が積極的に参画した結果、令和4年度は前年度に比べて約270名の在籍生徒増加につながったこと

は特筆すべきことである。

【肯定的評価が90%以上かつ95%未満】

全20問中、⑤「学校HPの充実」、⑦「危機管理の徹底」、⑩「面接指導（授業）の充実」、⑬「部活動の活性化」、⑰「教職員研修の充実」の5項目が該当する。通信制高等学校は生徒の登校日が限定的かつ個人により異なるため、面接指導（授業）や部活動を充実させるのが難しい側面があるが、多くの教職員は積極的に工夫・改善に努めていることがわかる。また、学校HPの充実、危機管理、教職員研修等の校務運営体制の整備にも学校全体をあげて取り組んでいることが見て取れる。

【肯定的評価が85%以上かつ90%未満】

全20問中、⑧「情報教育の充実」、⑪「国際教育の充実」の2項目が該当する。この2項目については、更なる充実が必要であると感じた教職員が一定数存在する結果となった。IT機器を用いた教育は一層重要性が増大する一方で、生徒や保護者のスマートフォン等への依存は、一層その程度を増している。このような中にあるのは、教職員一人ひとりが、IT機器に関するスキルの更なる向上に努めるとともに、通信制の特色や本校生徒の実態に即した授業内容の工夫・改善やモラル指導の充実を着実に進めていくことが何よりも重要であることがわかる。また、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大や国際情勢の緊迫化・流動化を受けて、国際的視野に立った思考力・判断力の育成が一層重要性を増している。本校は、Eクラスの海外語学研修やカナダ・バンクーバーへの語学研修の特色ある教育活動を展開しているが、今後はこれらの一層の充実と努めるとともに、生徒・教職員研修のいずれもが様々な機会をとらえて国際的知見を深める努力が必要であることがわかる。

全体を通して

令和4年度も、新型コロナウイルスの感染拡大が続き、学校教育活動に多大な影響が生じた。実技・実習などの授業内容の制限、学校行事（特別活動）の制限、出席停止の取扱事務、検温指導・マスク着用指導・消毒作業の負担等、様々な臨機応変の対応が求められる日々が続いたが、学校全体でチームワークを高めて乗り切ることができた。令和5年度は、国全体の対応方針が変更されることになったが、警戒を緩めることなく情報収集に努め、引き続き難局に立ち向かっていかなければならない。

また、新入学と転入学の志願者が大きく増加し、各分校・分室の事務量が增大したことも、全教職員が一致協力して対応することができた。

一方で、高等学校の新学習指導要領の適用が開始され、新しい時代に必要となる資質・能力の育成に向けた一層の取り組みが求められている。「生きて働く知識・技能の習得」、「未来の予知にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」の3つをバランスよく実現できるよう、今後も全教職員が目線を合わせて教育活動に邁進することが何よりも大切である。併せて、ICT機器の充実等、時代の進展に対応した教育環境の整備にも学校全体を挙げて取り組んでいくことが重要である。

令和4年度 長尾谷高等学校 学校評価 アンケート用紙

所属校()名前()

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	番号	設 問	評価
学校運営	教育課程	学習指導要領への対応	1	学習指導要領・教育課程と授業内容は一致していますか	
		教育計画について	2	年間を通じた教育計画を精選し、充実させていますか	
	連携	教員間連携	3	教員間、教科間の相互理解に基づく教育活動が行えていますか	
		教員と事務職員との連携	4	各分校分室内で教員と事務職員との相互理解が構築されていますか	
	情報公開	学校HPの充実	5	学校HPなど公開する情報は日常的に点検、更新されていますか	
		学校説明会の充実	6	説明内容は精選し、必要な情報を常に検証していますか	
	危機管理	危機管理マニュアル	7	役割の明確化、諸機関との連携、訓練内容の精選と充実はなされていますか	
教育内容	情報教育	情報教育の充実	8	IT活用能力の育成と情報発信モラルの教育に取り組み、これらを授業を含め様々な機会をとらえて指導していますか	
	教育体制	人間性を培う教育の充実	9	生徒指導において人間性を培う教育の充実が図られていますか	
			10	生徒が興味関心を持てるような面接指導(授業)の充実が図られていますか	
		国際教育の充実	11	国際的視野に立った思考力・判断力の醸成の機会を設けていますか	
	特別活動・部活動	充実と活性化	12	特別活動の実施内容は充実していますか	
			13	部活動の活性化を図るため、指導体制は整備されていますか	
・生徒支援指導	生徒指導体制の確立	学習指導、進路指導の充実	14	生徒の実態に即した学習指導・進路指導が行われていますか	
		指導方針の共通理解と丁寧な生徒観察	15	生徒指導方針の共通理解とそれに即した丁寧な指導が行われていますか	
	生徒支援	支援を必要とする生徒	16	特別な支援を必要とする生徒について、各校で把握し全体で取り組んでいますか	
・教資職員向上研修	研修体制の充実	研修体制の充実	17	教職員研修の実施及び研修の成果は共有されていますか	
		人権教育の充実	18	学校生活のあらゆる機会をとらえて人権教育についての指導が行われていますか	
	資質向上	業務遂行の際の連携協力	19	業務遂行について管理職、経験豊富な先輩からの適宜・適切な助言などはもらえていますか	
			20	指導力向上のため、自己研鑽に努めていますか	

Ⅲ 学校関係者評価 概要

(名称) 名称を「長尾谷高等学校学校関係者評価委員会」とする。

(目的) 1 長尾谷高等学校の教育活動の一層の向上に向け、学校と連携しながら取り組む。

2 学校関係者評価を実施し、学校の教育活動を支援する。

3 校長の求めに応じ、学校の運営に関し意見を述べる。

(活動) 1 委員の任期は4月から翌年3月までの1年とする。

2 委員の再任は妨げない。

3 会議は校長が主催する。会議を開催できない場合は、校長が意見等を聴取する。

(事務局) 事務局を長尾谷高等学校枚方本校に置く。

(構成) 令和5年度委員 (敬称略)

森口 愛太郎 (大阪府立桜宮高等学校長)

大西 忠典 (大阪府立都島工業高等学校長)

端野 克也 (東洋学園高等専修学校副校長)

高島 忠幸 (近畿情報高等専修学校副校長)

Ⅳ 「令和4年度 長尾谷高等学校学校関係者評価委員会」の意見

1 「学校運営」評価

- ・今後も教員のみなさまが、緊密なコミュニケーションや連携をしっかりとっていただき、共通意識をもって生徒達のために頑張っていただきたいと思います。
- ・「学校運営」全般について、概ね全教職員が高評価していることから、貴校が全教職員の共通理解のもと組織的に学校運営を行っていることがわかる。
- ・教職員の意識が高い。各分校に分かれている中、相互理解や共通意識を持ち、意思統一がなされ、協調性を持って教育活動がなされている。
- ・教育課程に基づく教育計画を立案し、授業充実に努めておられ、学校において重要なことをしっかりとされていることは素晴らしいと思う。

2 「教育内容・教育の課題」評価

- ・さまざまな課題をもつ生徒達に対して、自分自身はもちろんのこと、自分の周りの人も大切にできる意識を高めることができる教育の継続をお願いいたします。
- ・ICT活用能力の育成、情報発信モラル教育について、「あまりあてはまらない」との回答が約14%であることが気になる。教職員全体へのICTに関する研修を充実されたい。
- ・電子黒板導入に伴い、教育の質を高め、学習習慣や学力に課題を持つ生徒が興味関心の持てるような授業改善に期待します。また、部活動については、通信制独自の登校形態や5校分散体制の中で、活動自体が大変なこととは思いますが、今後より充実したものとなるよう期待します。
- ・粘り強い指導による人間性を培う教育を展開することで、生徒の学校生活はより充実したものになります。学習指導にとどまらない指導を実践されていることは生徒にとって大いに意味のあることであると思います。

3 「生徒指導・支援」評価

- ・引き続き、生徒一人ひとりに寄り添った丁寧な生徒指導の実践をお願いいたします。
- ・「生徒指導・支援」について、全教職員が「あてはまる」と回答していることから貴校の生徒指導・支援体制の充実ぶりが窺える。今後もより支援が必要な生徒が多く入学してくると思われるが、全教職員で一丸となって取り組むことのできる生徒指導・支援体制を構築されたい。
- ・教員が自信を持ち丁寧な指導が行われていることが伺える。特別な支援が必要な生徒対応も各分校間の共通理解がしっかり図られて、指導体制が整っていることが伺える。生徒一人ひとりの成長に期待したい。
- ・進路指導を丁寧に行われていることは、生徒にとって安心なことであり、今後もしっかりと継続していただくことを期待しています。

4 「教員研修・資質向上」評価

- ・大変お忙しいとは思いますが、各先生方が研修等において自己研鑽に努めていただき、みなさまで情報共有をしていただきたいと思います。
- ・教職員研修、人権教育について僅かながらも「あまりあてはまらない」との回答がある。今後一層の検討改善を期待する。
- ・資質向上に向け、積極的な校内研修を実施されている。人権教育についての研修は、アンケート報告書にあるように充実に向けた工夫を期待したい。業務推進については、教職員の一体感が伝わり好感が持てる。
- ・教員研修は、教員の授業力を高め、生徒の学力向上にもつながる重要なものです。今後も研修体制の一層の充実を図られるよう期待しています。

5 「総括」の評価

- ・新入学生徒や転入学生徒が増加するなか、さまざまな取組みをされていることがわかりました。引き続き、生徒達のために何ができるのかを考えていただき、教育を進めていただければと思います。
- ・通信制高校全体の志願者が増加している。事務量の増加に対して、全教職員の一致協力で対応することはもちろんのこと、「働き方改革」の観点から、教職員の負担が増加することなく対応できる組織体制の構築が必要と思われる。
- ・通信制の中で生徒との関係性を高めようとされている取組みが伺える。また、教職員の充実感、教育活動への積極的に取り組む意欲と自信が伺える。今後、更なる活躍に期待したい。
- ・肯定的評価が高く、丁寧な指導が行われていることが伺えます。

6 その他、今後の学校運営についてのご意見

- ・今後も、さまざまな情報提供をお願いいたします。
- ・大阪に複数ある通信制高校の中で、「長尾谷高校」でしか学べない独自性のある戦略的 school 運営を期待する。
- ・生徒に満足感を与える学校として、今後も学校運営を進めていただきたい。